

## 世界史B 6カトリック教会と十字軍

### 1,ローマカトリック

・ローマ教会→自ら[ ]1=普遍的=と称す。

┌使徒ペテロを創建者とし、全キリスト教会首位の座を主張

└ローマ教会司教→「( )2」=教皇と称する。

┌ビザンツ帝国の( )3教会と競い合う

ベネディクトゥス(480^543)らによる( )4→やがて各地の学問・芸術の中心

↑6世紀モンテ・カッシーノでキリストにならう共同生活。「祈り働き」修道士のための戒律

教皇グレゴリウス1世(位590~604)→ゲルマン人に布教。聖像を使用。

8世紀以降「( )5崇拜論争」⇒東方教会との隔たり拡大

東方教会---イスラムとの接触→聖像=[ ]6を偶像として排撃

726年 ビザンツ皇帝レオン3世(位717~747)「聖像禁止令」発布(~843年)→対立激化

### 1054年 キリスト教会東西分裂

┌ローマカトリック---西ヨーロッパ。偶像を使用。「Catholicus」

┌ギリシャ( )7---ギリシャ、バルカン半島、ロシア。「Orthodox」

・ゲルマン諸国

800年 カール大帝の戴冠後⇒住民からの「( )8税」導入

┌王権維持のためローマ( )9の支持を利用。

└教皇に援助(財政・軍事)し、教皇から王位、帝位を与えられる。

┌王・諸侯が教会に大所領を( )10→大司教・修道院長の封権領主化

### 2叙任権闘争と修道院運動

大司教・司教・司祭・修道院長などの「聖職階層制」=( )11が確立。

聖職売買・領主による聖職者の任命・聖職者の結婚などの広がり

⇒11世紀南フランスの( )12修道院❖aによるカトリックの肅清、浄化運動

❖a---909年創建。ベネディクト会に属す。1200の修道院。祈祷を重視。典礼は壮麗・華美。

グレゴリウス7世(位1073~85)聖職売買等を禁じ、違反者を破門→グレゴリウス改革

→聖職者を皇帝、国王が任命することに反対→「聖職者( )13権」問題

### [叙任権闘争]

1076年 神聖ローマ皇帝ハインリッヒ4世(位1056~1106)は教皇の( )14を決定。

→教皇グレゴリウスは対抗して皇帝の( )15を宣告。

1077年冬「( )15の屈辱」 その後1122年「ヴォルムスの協約」

→叙任権は( )16に。政治支配権は皇帝に。→教皇権高まる

( )17 3世(位1198~1216)→教皇権の絶頂期

神聖ローマ皇帝オットー4世(位1209~15)はじめ、英仏独の王たちを破門

### [修道院運動]

┌( )18修道会❖b---12世紀フランス。ベネディクトス戒律の遵守、荒れ地の開墾。

└フランチェスコ修道会---13世紀イタリアのアッシジ。( )19(1181~1226)❖cによる托鉢と清貧な生活

┌( )20修道会❖d---13世紀フランス。ドミニクス(1170~1221)による。托鉢と布教。

❖b---クリュニーの華美を批判。労働・学習を重視。質素・素朴な自給自足生活。「白い修道士」

❖c---裕福な家に生まれるが24歳頃改心。全財産を放棄、福音書に従う生活を実践。小鳥に説教。

❖d---清貧を重んじ、また神学研究に励む。多くの学者を出す。( )21審問の審問官も。

### 3,十字軍 (第1回1096年~第9回1272年)

→西ヨーロッパ世界の外への膨張→十字軍・東方( )22運動・国土( )23運動

聖地巡礼熱の高まり→ローマ、( )24, サンチャゴ=デ=コンポステラ(スペイン北部)

・( )25朝 1071年東ローマ軍を破り、小アジアと イェルサレムを占領

・ビザンツ皇帝⇒ローマ教皇に救援を求める。

教皇( )26 2世(位1088~99)

⇒1095年( )27公会議で十字軍、「聖地奪還」を呼びかけ

・第1回十字軍 (1096~99)

┌東方世界の豊かな財宝も目的。フランス、ノルマンの騎士と( )28諸都市が参加

┌「参加者→罪が許される」 誓いの印として胸に[ ]29

1099年イェルサレム一帯(ファーティマ朝)を占領。ムスリム・ユダヤ教徒を虐殺。

→「( )30王国」(1099~1291)建国。

1187年サラフ・アッディーン(1137~93)のアイユーブ朝軍に敗北(ハッティーンの戦い)→宗教共存秩序回復。

・第3回十字軍 (1189~92)

教皇( )31 8世(1187)の呼びかけ。

神聖ローマ皇帝フリードリッヒ1世(位1152~90)、フランス王フィリップ2世(位1180~1223)

イングランド王リチャード1世(位1189~99)が参加→休戦協定(巡礼の自由、アッコン確保)

・第4回十字軍 (1202~04)

教皇イノケンティウス3世の呼びかけ。エジプト・( )32朝遠征が目的

しかし輸送担当の( )33❖e商人の依頼でザラ(ハンガリー領)へ。

→イノケンティウス3世は十字軍を( )34

十字軍はさらに東ローマの( )35を攻略→「ラテン帝国」を建てる。

→1261年、ビザンツ帝国が同市を再度奪還する。

❖e---アイユーブ朝のカリフ、アル・アーディルと協定。エジプト遠征に参加しない代わりに[ ]36など

への入港を承認。ザラはかつてのヴェネツィア領。カトリック信仰。

### 十字軍の影響

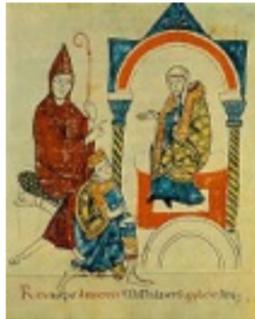
・失敗→宗教心と( )37の権威の低下

・参加した中小の諸侯・騎士→戦没・衰退→( )38の伸長→封建体制の動揺

・北イタリア諸都市の発達

・宗教騎士団の結成=聖ヨハネ、templar、ドイツ騎士団→帰国後東方植民→( )39公国形成

・西ヨーロッパ内部では、異端排斥や[ ]40教徒への迫害が始まる。



カノッサの屈辱



第一回十字軍(イェルサレム)



ベネディクトゥス



アッシジのフランチェスコ

・破門 ・王権 ・回復 ・異端 ・植民 ・教皇 ・領主 ・破門 ・叙任 ・廃位 ・奴隷 ・聖像 ・寄進  
・教皇(2) ・パパ ・正教会 ・修道院 ・10分の1 ・ローマ ・シトー ・カノッサ ・ドミニコ ・クリュニー  
・プロイセン ・ウルバヌス ・クレルモン ・アイユーブ ・セルジューク ・グレゴリウス ・イェルサレム(2)  
・ヒエラルヒー ・フランチェスコ ・イノケンティウス ・コンスタンティノーブル(2)